平成30年度　朝霞市学校評価　　平成31年3月7日

学校評価（共通項目）評価書

朝霞市立朝霞第五小学校

柱	No	評　価　項　目	自己評価	自己評価の説明及び学校の考え	関係者評価	学校関係者評価者の説明
学校の組織運営	1	学校は、学校教育目標達成に向けて、全教職員で組織的に取り組んでいる。	A	学校教育目標達成に向け、校長の学校経営方針を全教職員に浸透させるために、1日1枚「校長室だより」を作成・配付した。（教職員による校長評価A＋B100%） 校長の学校経営方針を念頭に置きながら、児童一人一人の実態を把握したうえで、校内分掌組織を活用して具体的な改善策を検討した。改善策実施にあたっては、学年会等を通して共通理解・共通行動の徹底が図られた。	A	校長先生の学校経営方針が教職員に浸透している。校長先生の教職員への指導も良好で、概ね学校教育目標は達成されていると思う。教職員の方々が、考えや思いを1つにし、児童の成長を最優先に日々の教育活動を組織的に取り組んでいる。児童と直接関わる先生方の前向きな姿勢とそれをけん引する校長先生の熱意を感じる。
	2	学校は、安全・安心に配慮し、危機管理体制を整えている。	A	施設事故等が起こりやすい時期を事前に想定し、事故を未然に防ぐための事故防止年間計画を作成して、教職員間で声がけをするなどの活用をした。 日常点検や定期点検では、児童の視線や動きを想定して実施をした。また、臨時点検では、他校の事故事例から再発防止の視点を学んで実施した。これらの点検により、児童の怪我の原因となる施設設備事故は皆無であった。	A	教職員事故が新聞紙上等で報告されているので、事故防止年間計画を作成し、事故防止に取り組んでいることは評価できる。しっかりした指導がされており、全く問題がない。日常点検や定期点検をしっかりしている。日頃より児童の様子を把握することにより、行動等を予測し、環境を整えている。
基礎学力の定着	3	児童生徒は、教職員の指導により、基礎学力を身に付けている。	A	基礎学力を定着させるために、加配教員やあさかスクールサポーター等を活用して、少人数指導や習熟度別指導、個別学習支援を意図的・計画的に実施した。また、ワークや小テストを繰り返し実施することで、計算力及び漢字の定着が図られた。 第3学年～第5学年の児童のうち希望者を対象して、「ウインタースクール」（四則の計算）を3日間実施した。	A	外部からのアフターフォローもあり、よい環境が築かれている。1学級あたりの人数が多いので、加配教員等を活用して、きめ細かく指導しているのはすばらしい取組である。また、「ウインタースクール」もぜひ継続してもらいたい。学力の二極化は深刻なことではあるが、特に低学年のうちに学ぶ楽しさをたくさん感じてほしいと願っている。
	4	学校は、学力向上をめざし、児童生徒の実態に基づいて授業改善に努めている。	B	学力・学習状況調査結果を分析し、課題となった「学力の二極化解消」「国語の書く力の育成」に重点を置いて授業改善を実施した。特に、実物教材やICT機器を活用するなどの工夫を図ることで、児童の興味・関心を高めた。 大学教授を指導者に招聘し、研究授業を複数回実施した。研究協議では教員間で活発な意見交換がなされ、指導力向上につながった。	A	大きな改善が見られ、感謝している。学力の二極化は深刻なことではあるが、担任だけでは負担が大きいので、学校応援団などに支援していただけるのが望ましい。また、研究授業を通して、教員の指導力向上につながっている点も評価できる。学びの中での楽しさや達成感を得て、学ぶことへの姿勢や心が養われることを期待する。
規律ある態度の育成	5	児童生徒は、生活のルールに基づき、発達段階に応じた「規律ある態度」を身に付けている。	B	年度当初に比べ、しっかりとした挨拶ができたり、時間を守って行動できたりするなど規律ある態度を身に付けている児童が学校全体として増えた。各学級では、規律ある態度に関して、児童がよくできた点や成長した点を具体的に認め、学級全体の前で褒めていた。今後も、学校全体として、児童の成長を認め、褒めることを通して、自己指導能力を育てていく。	A	あいさつ推進隊によるあいさつ運動などもあり、あいさつはできるようになってきている。もう少し大きな声でのあいさつが飛び交うよう指導をお願いしたい。始業前に声をかけ合い、準備をして授業に臨むなど、自主的な行動が見られた。学校のみならず、家庭環境も大きく左右するので取組や目的などの共有をしていただきたい。
	6	学校は、児童生徒の実態把握に基づき、規律ある態度の指導の工夫・改善に努めている。	A	生徒指導委員会や学年会において、児童全体の実態分析を行い、それに基づいた生活目標を設定して指導にあたってきた。月ごとの生活目標については、月初めのお話朝会で、視覚資料を提示して児童に分かりやすく指導した。また、年間生活目標や月ごとの生活目標を、廊下や教室等に継続して掲示することにより、児童が定期的に意識するように工夫をした。	A	児童の実態分析を行い、それに基づき生活目標の設定・指導にあたってくれているのはすばらしいことである。保護者としては、最も力を入れて欲しいところであり、概ね良好である。年間生活目標や月ごとの生活目標が廊下や教室に掲示されており、児童も意識しやすのではないか。
健康・体力向上	7	児童生徒は、体育の授業や運動部活動、外遊び等の運動に意欲的に取り組んでいる。	B	今年度から、けやきマラソンを金曜日のけやきタイムに実施するように変更したため、参加する児童が昨年度と比較して増えた。また、休み時間は、サッカーや縄跳びをして遊んでいる児童が多く、担任教諭も児童とともに遊んでいる。一方で、教室に残りがちな児童もいる。今後は、児童一人一人へ配慮もしながら、さらに意欲的に取り組める学習の場づくりや遊びなどを紹介して奨励していく。	A	けやきマラソンの実施日時を変更し、参加児童が増えたことはすばらしい。全ての児童に同じようにはなかなか難しいと思うが、継続的な取組をお願いしたい。個人差もある事なので、各々の目標、伸び率などが見えると励みになる。運動教室等の実施を引き続き臨む。環境面で似た様な学校や地域の取組を参考にするなどより活性化してほしい。
	8	学校は、児童生徒の体力を高めるため、意図的に向上策を講じている。	A	運動を得意とはしない児童を対象として、けやきタイムや昼休みに「鉄棒教室」や「跳び箱教室」等の運動教室を実施した。児童は積極的に参加をして、技量の向上が図られた。また、体育の授業でも、児童の運動量を確保した。 新体力テストでは、体力向上推進委員会が実施種目についての動作のポイントを分かりやすくポスターにして全教職員に周知するなどの工夫を図った。	A	学校では、運動が苦手な児童を対象に、いろいろな取組をしてくれており、技能の向上に期待している。運動好きな児童を育てて欲しい。新体力テストは、シャトルランやボール投げに課題があるということであるが、児童数が多く、校庭が狭いという環境の中でも課題解決に向けて積極的に取り組んでいってほしい。
連携	9	学校は、保護者や地域と連携し、その教育力を学力や体力の向上に生かしている。	A	児童の学習活動への支援、環境整備での支援、児童の安全確保など、年間を通じて、保護者や学校応援団の方にご協力をいただいている。 また、学校公開では保育園、幼稚園を招待するとともに、保育園や幼稚園の学校見学などを受け入れ、保幼小の連携を積極的に行った。中学生による挨拶運動や小中学校教員の相互訪問など、小中連携も積極的に行った。	A	学校・保護者・地域のとても良い関係が築かれており、学力向上・体力向上に取り組んでいる姿がよく見える。以前より、学校全体に活気が出てきた事により、保護者や地域の方も更にコミュニケーションが取りやすくなったように感じる。学校が東洋大学と連携し、算数を苦手としている児童の補習に取り組んでいる話を伺い、すばらしい取組だと感じた。今後も続けてほしい。
	10	保護者や地域は、学校と協力し合い、児童生徒の安全指導・健全育成を推進している。	B	スクールガードによる見廻り活動では、児童の安全面を最優先に定期的に行った。今年は、通常の見廻りに加え、「空き家対策」という重点化を行った。低学年が授業の一環として近隣で活動を行う際にも、見廻りをしてくださった。 メールにより「不審者情報」を配信した際には、児童の安全確保のために、保護者や地域の方が見守りに出てくださる姿が多く見られた。	A	スクールガードリーダーや学校応援団による児童の見守り活動が定着しており、児童を安心して登校させている。PTAとの連携もしっかりやっていただき、大変助かっている。保護者を代表してお礼を申し上げる。メールなど便利になったものの、情報のみとならないよう、保護者、地域、学校のより一層の協力体制づくりをPTAとしても努力していきたい。

注：「自己評価」及び「関係者評価」の欄はA～Dで記入
　Aは4点、Bは3点、Cは2点、Dは1点で換算した平均値から、A：3.4以上、 B：2.6以上、 C：2.0以上、 D：2.0未満